



インドネシア

6 メラク-バカウニ・フェリーターミナル拡張事業(2)

A
B
C
D

ジャカルタ都市圏を抱えるジャワ島西部と、天然資源に恵まれたスマトラ島を結ぶ基幹航路であるメラク、バカウニ両フェリーターミナルに第3バースを建設することで、旅客輸送および物流の増強を図り、もって地域の経済発展に寄与する。

承諾額/実行額 58億9,800万円/32億3,400万円
借款契約調印 1993年11月
借款契約条件 金利2.6%、返済30年(うち据置10年)、一般アンタイト
貸付完了 2002年12月
実施機関 運輸省陸運総局



外部評価者 岡田 卓也((株)コーエイ総合研究所)
現地調査 2004年10月

評価結果

本事業では、ほぼ計画通りにメラク、バカウニの両港で5,000トン級の大型船舶に対応するバース※の新設、アクセス道路、駐車場およびバス乗降場の整備等が行われた。コンサルタント雇用方法の変更、通貨危機の影響等によって期間は計画を大幅に上回ったが、事業費は計画を下回った。

フェリー船舶の就航は1993年には11隻であったが、2003年には26隻となり、また1日あたりの航行数も64便から120便(02年)に増加した。00年の乗客数(1,401万人)、車両(263万台)は当初計画を上回り、貨物量(667万トン)は、ほぼ計画通りであった。

メラク-バカウニ航路の後背地域であるジャワ地域(バリ島を含む)は、国内総生産の約6割を、またスマトラ地域は約2割を担う重要な経済地域である。両地域とも97年

の通貨危機後、99年までGRDP(域内総生産)成長率はマイナスだったが、その後プラスに転じている。本事業は、貨物輸送の往来を中心として、総人口約1億7千万人を抱えるスマトラ、ジャワ両島の後背地域の経済・産業特性を踏まえた両島間の交易を支えている。

運営・管理を担当する国営フェリー公社の技術、体制、財務面について問題はない。

※ 船の停泊場所。錨地。

第三者意見

インドネシアの大動脈であるジャワ-スマトラ間を結ぶことで物流と人の交流を促し、地域経済を活性化した。また、ジャワ島からスマトラ島への移住計画にも整合している。

有識者 Mr. Surjadi Soedirdja (公的部門)
元内務大臣、元ジャカルタ州知事、元大統領顧問。

本事業の実施地域



メラク、バカウニの両港はジャワ島とスマトラ島を結ぶ物流および経済活性化を促進する基幹港である。

本事業による効果●フェリー運航便数の増加

一日平均のフェリー運航便数は1993年には64便/日であったが、2001年には94便/日、2002年には120便/日と、大幅に増加した。

フェリー船舶の総トン数(GRT)別就航隻数

GRT階級	事業実施前(1993年)	事業実施後(2003年)
3,000GRT未満	2	2
3,000GRT以上5,000GRT未満	9	14
5,000GRT以上	0	10
計	11	26



メラク港第3バースに停泊中のフェリー船舶